

# 令和7年度 “えちご中越米” の高品質安定生産に向けた重点栽培技術

JAえちご中越 営農経済部

## 1 気象変動に対応した「品種構成と作期によるリスク分散」！ ⇒ 高温対策とリスク分散

- (1) 異常高温・フェーン等の気象リスクを分散するため、高温耐性品種を含めた複数品種栽培や直播栽培等を取り入れた作付計画
- (2) 適期収穫が可能で収穫・乾燥能力に応じた品種構成とコシヒカリの適正作付け
- (3) コシヒカリの出穂期は8月5日以降を目指し、播種・田植時期の分散

## 2 高温に耐えられる「土づくり・元気な根づくり」！ ⇒ 高温対策

- (1) 稲わら秋すき込みともみ殻ほ場還元 → 地力増強と稲わらの分解促進・温暖化ガス発生抑制
- (2) 作土深 15 cmの確保による根圏域の拡大(チゼルプラウ・”回り耕ち”等)
- (3) 堆肥・完熟発酵ケイフン等による土づくりと地力アップ及び適正基肥量の施用
- (4) ソイルマップ・土壌分析に基づいたケイ酸質・鉄資材施用による稲体の体質強化

## 3 健苗育成で「揃いの良い良質茎を早期確保」！ ⇒ 収量確保対策

- (1) 適期播種による健苗育成と移植前追肥による活着・初期生育の促進 (深植え是正)
- (2) 活着後は浅水管理で分けつ発生を促進し目標茎数を確保
- (3) 表層剥離や藻・ワキ防止と根の健全化を図るため水更新と夜間落水を実施

## 4 適期中干しによる生育調節で「倒伏させない稔の良い稲づくり」！ ⇒ 倒伏対策

- (1) 中干しは茎数過剰を抑制するため、遅くとも田植後 30 日迄に開始  
(目標穂数の 70~80%確保時:地力や土質によって開始時期は要検討)
- (2) 中干しを効果的に行うため、”溝切り”は必ず実施
- (3) “小ヒビ中干し”を基本とし、軟らかいほ場はやや強め中干しで地固め
- (4) 中干し期間は2~3週間とし、出穂の1か月前には必ず終了
- (5) 夏季高温時の緊急灌水、秋季長雨排水対策、地耐力確保のため、中干し用溝の“額縁点検”は出穂期までに行う
- (6) 大豆・基盤整備後水田では特に強め中干しとし、過剰分けつ抑制に努める

## 5 的確な生育診断と後期栄養(穂肥)の増強で「高温に強い稲づくり」！ ⇒ 高温・品質対策

- (1) 草丈・葉色による穂肥診断と衛星画像等のスマート技術の活用 → 生育均一化と倒伏防止
- (2) 高温に耐えられる後期栄養(穂肥)の増強で白未熟粒の発生を防止
- (3) “1回目穂肥は草丈・葉色で生育診断、2回目は確実に実施、3回目は必要に応じ施用”
- (4) コシヒカリは地力・生育に応じた穂肥とし、倒伏防止に留意
- (5) 8月の高温常態化に対応した慣行栽培の化学合成窒素使用量の見直しに伴い、特別栽培米における穂肥化学合成窒素使用量が 0.5kg/10a 増施可能
- (6) 高温が予想され2回目の穂肥施用後も葉色が低下している場合は、出穂3日前位迄に追加穂肥を実施(全量基肥肥料を使用した場合も施肥量上限を確認のうえ施用)
- (7) 品質と良食味を兼ね備えた適正玄米タンパク質含有量(コシヒカリ;6.0%、こしいぶき 6.2%)

## 6 こまめな水管理で「粒張りのよいおいしい米づくり」！ ⇒ 高温・品質対策

- (1) “飽水管理”又は“間断灌水”の徹底 → 根の活力維持、葉色・地耐力を確保
- (2) フェーン緊急情報を活用した台風・フェーン時の事前湛水と通過後の水更新
- (3) 高温時は水温上昇を抑えるこまめな水管理
- (4) 最終かん水は出穂後 25 日以降とし、早期落水をしない(田面の過乾燥防止)

## 7 少ない農薬使用で「効果的な雑草・病虫害対策」！

- (1) ほ場均平や漏水防止に加え、ほ場条件に合わせた剤型選択で水田内雑草を効果的に防除  
(初中期一発除草剤、中後期剤の上手な使い方と組合せ使用)
- (2) 初期病虫害は、発生地域に合わせた箱施用剤の使用で効果的防除
- (3) いもち病及び紋枯病は、品種に合わせた予防防除が基本
- (4) 斑点米カメムシ対策 ; ①水田内除草(ヒエ・ホタルイ) + ②畦畔・農道除草管理(イネ科雑草) + ③農薬適期散布 の組合せ防除

## 8 適期収穫と丁寧な選別で「全量“1等米”への総仕上げ」！ ⇒ 高温・品質対策

- (1) 適期収穫と適正乾燥で胴割粒の発生防止 ; ①収穫適期情報活用 + ②ほ場の靱黄化程度 85~90%で収穫期適期判断 + ③高温・フェーン時の乾燥速度と過乾燥防止
- (2) 適正流量による丁寧な調製と篩目拡大(1.9 mm)及び色彩選別機の有効活用による未熟粒除去と整粒歩合向上
- (3) 収穫適期内の計画的刈取りとカントリーエレベーター等共同乾燥調製施設の臨時的活用

## 9 「新之助」や高温耐性品種の生産拡大と高品質米の安定生産 ⇒ 高温対策

- (1) 「新之助」栽培指針にそった生産登録と栽培管理の実施
- (2) いもち病対策の徹底(葉いもち・穂いもちの予防防除)
- (3) 適期収穫による胴割粒の発生防止

## <JA からの技術情報の発信>

- (1) HP での技術情報発信(栽培暦等、定期・随時)
- (2) LINE による生産者への緊急情報発信(リアルタイム生育情報、フェーン緊急情報等、随時)
- (3) 生育ステージに合った肥培管理技術を情報提供(定期)
- (4) ほ場での生育情報掲示(看板)、のぼり旗設置等による重要技術の実践を徹底(随時)
- (5) 栽培履歴共通化によるビッグデータ集計の迅速化とデータ解析によるフィードバック

## ～ JAえちご中越の特徴を生かしたニーズに応える多様な米生産の取り組み ～

- (1) 県内過半を占める5割減農薬・減化学肥料栽培(特別栽培米)等の高品質米生産  
【 エコ・5-5 米、難関突破米、柏崎市認証米山プリンセス、新潟県認証特別栽培米 等 】
- (2) 県内最大規模の酒造好適米生産地としての県内酒造業界との連携・安定供給
- (3) 地元米業界への加工用もち米「ゆきみらい」等の高品質多収生産と安定供給
- (4) 県内最早の新米「葉月みのり」の生産・出荷と消費者への新米提供
- (5) 加工用米・業務用米の低コスト多収生産; 「ゆきん子舞」「にじのきらめき」「あきだわら」等
- (6) 流通・取引業者等への積極的トップセールスと消費者への理解促進